


2009
3月15日号113
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言



学術講演会へ参加を!



副会長 鈴木 憲 二

2月に入っても暖冬の影響か暖かい日が続いており、春が来ているような錯覚に陥るかのようにあちこちで早咲きの桜の便りが訪れるようになってきている。

昨年来、続いている不景気は米国のリーマン経営破綻が発端となって金融危機、不況となりマスコミでは100年に1度の世界的な不況と伝えている。

医療界でも昨年12月に大阪府松原市の市立松原病院が本年度で閉院する事となった。原因としては大阪府からの地方交付税の削減、医師不足による患者数の減少、診療報酬の引き下げ等が挙げられるが、国の医療政策の失敗によるシワ寄せが各地方自治体にも広がっていることは言うまでもない。

福島県内を見ても医師不足による診療科の休止や廃止、病院の統合とか医療情勢は決して良い方向には向かっていない。そこで働く診療放射線技師の待遇も良くなっていないが、このようにときにこそ放射線技師がアピールしていれば、自ずと結果が付いてくるように思われる。そのためには福島県放射線技師会が共催している各研究会の講演会に参加し、会員の質的向上により県民医療への貢献を行うことで放射線技師の社会的地位向上になるものと確信している。今年度より福島県放射線技師会の会員証を作成し、共催している研究会への参加者にポイントを付与する事とした。

現在、福島県放射線技師会には放射線治療分科会、乳房撮影分科会（乳腺画像研究会）、消化器撮影分科会（消化器研究会）、CR撮影分科会（画像技術研究会）、CT撮影分科会（CTビギナーズセミナー）、MR撮影分科会（MR技術研究会）の6つの分科会があり、それぞれが年1回の講演会等を計画しているので是非参加して自己研鑽していただきたい。

来年度は福島県放射線技師会の役員改選、新公益法人認定取得等多くの課題がある。5月16日は福島市のあづま荘で総会が開催されるので多数の会員が参加し、活発な意見を述べ福島県放射線技師会が益々発展し、県民に貢献できるよりよい組織が出来るようにご支援ご協力をお願いしたい。

平成20年度 第4回理事会議事録

日 時：平成21年2月20日（金）14時00分～

場 所：県立医大病院放射線部カンファランス室

出席者：片倉会長、鈴木、斎藤副会長、嶋田監事、吉田、白川、八巻、斎藤（重）、富塚、新里、佐藤、山田、古川、森口、今野、遊佐理事

事務局：伊藤事務局長、村上

議長に斎藤副会長、議事録作成は浜通り支部が担当し議事に入る。

議題

1. 平成20年度事業進捗状況

委員会報告 特になし

2. 平成21年度福島県放射線技師会総会について

・担当の県北支部より説明

日時 平成21年5月16.17日（土・日）あずま荘（福島市飯坂温泉）

特別講演 富士フィルム 野口雄司先生

演題 「現在の医療状況」

・総会準備

各支部、各委員会、各研究会の活動記録及び次年度予定を会報用として2月中まで提出のこと、また総会資料用として3月14日まで原稿を提出すること

4月2日次回理事会を予定しているため、そこで最終調整をする

3. 平成20年度東北地域連絡協議会及び地域会長会議について

平成21年2月28日、3月1日に日放技会長との懇談会を行う

・東北部会と地域学術大会、部会との合同開催を提案したい

・eラーニングによるアドバンス取得においても看護、救急については実習、講習が必須となり、地域開催が必要である。

・教育委員は浜支部の堀江さんをお願いすることにし、本人、施設に文書で依頼する
必要な講習会等は会として派遣する

4. 公益法人認可申請に向けた定款改正について

前回提案の新定款に関する案に対し、特に不具合、見直し提案などは出なかった

今度の総会にかけの事にする（総会では2／3以上の賛成が必要）

5. その他

・事務局より

会費未納が多く、県・各支部の決算がマイナス計上となってしまうため、各支部長に催促して頂いて、3月14日までに入金できるよう対処願いたい

・平成20年度予算遂行状況報告

支部予算計上において、健康祭り関係は、啓蒙普及費のパンフ・パネル費に計上すること

・平成21年度の活動計画で、日程の分かるものは早めに連絡をすること

・平成21年度は役員改選につき

選管委員をすぐに各支部1名選出すること（県北支部が委員長）

支部選出の県理事を、選出すること（支部総会後でも良い）

・事務局より

日本放射線技師会の勤続30年表彰の該当者に連絡をした
県の勤続20年表彰の該当者を各支部で選出し、3月14日までに連絡すること

第20回消化器研究会開催

平成21年2月14日(土)・15日(日)の2日間、いわき市「新舞子ハイツ」にて第20回消化器研究会が開催されました。当日は2月とは思えないほどの暖かさで、数多くの方に参加して頂きました。

症例検討会では、4施設からの症例が提示され、参加者がそれぞれ所見を読み、それぞれに配られた用紙に所見を書くことで自分のレベルを知ることが出来たと思います。

教育講演は、社会保険中央総合病院の奥田圭二先生により「症例からみた胃X線検査の要点」と題して多くの症例を提示して頂き、読影の要点や撮影中に注意すること、撮影のポイント、症例の経過など技師として数多く学ぶべきものがあつたと思います。特に撮影した技師によって見逃される症例などは、技術力、読影力といったものを今以上に勉強していかないと受診者にとって無駄な検査になってしまうと考えさせられました。

特別講演は、(財)早期胃癌検診協会の吉田諭史先生より「胃がんのX線像と組織病変」と題して、分化型癌と未分化型癌の違いを胃の解剖から始まりX線画像や病理を交えそれぞれの浸潤の仕方を詳しく解説して頂きました。そのことでX線画像での見え方の違いが理解でき、読影をするときに役に立つものと感じました。また胃の基準撮影法についても解説して頂き、背臥位二重造影正面像というものは、本来胃角を広く見せる体位であつたのが胃角を気にせず身体の正面で撮影することの意味や前壁撮影に関しての撮影法など詳しく説明して頂きました。今後は、早期癌の発見を目指し撮影や透視観察、読影といった技術の向上をそれぞれがしていかなければならないと改めて感じました。

今回の研究会は、とても内容が濃く時間を忘れてしまうほどとても有意義な研究会でした。（浜支部 森下）

福島県画像技術研究会開催される

平成21年1月17日福島市の福島テルサに於いて第16回福島県画像技術研究会開催が開催された。

今回は2つのプログラムが生まれ、最初に“輝度計を利用した輝度計の管理”のテーマで、この会で購入した輝度計を使い、県内4方部の代表的な施設で実際の測定を行い、施設ごとモニター種ごとの現状を報告した。画像表示用のモニターで、定期的な管理をしてあれば、標準的なDICMカーブにほぼ一致していたがCTなどの装置付属のモニターではばらつきが多かった。また輝度計を用いる方式では環境光の影響も大きいので、クリップオンセンサーとの比較も興味があるところである。

今後、我々の業務の中で重要な役割を果たすことになるモニターの管理であるが、まだ始まったばかりで具体的な方法を試行錯誤している状況である、センサーや管理用ソフトの使用なども含め今後の展開が注目される。

特別講演は“CT colonography update”と題して、国立がんセンター中央病院の三宅基隆先生による、大腸癌スクリーニングへの応用を目差しての具体的な検査手技の紹介であった。



大腸に空気を入れてCT撮影する事は、知識としては知っているが実践されている先生の話聞く機会少なく、貴重な講演だった。

空気や炭酸ガスの注入により十分膨らんだ大腸は、MDCTと観察用ソフトの開発により、内視鏡モードや展開表示などが可能で、今までにない観察が出来る、今後は大腸内視鏡や注腸造影との使い分が問題となってくると思われる。

告 示

定款第11条及び第13条の規定に基づき、平成21・22年度役員選挙を下記により行います。

記

- 1、役員の数
会長：1名 副会長：2名
監事：2名 理事：11名以上14名以内
- 2、立候補、推薦候補届出受付開始日及び締切日
平成21年4月1日より4月29日正午まで
- 3、投票日
平成21年5月16日（土） 総会開催日
以上告示します。

平成21年3月1日
社団法人福島県放射線技師会
選挙管理委員会委員長
佐藤 靖芳



浜 通 支 部

第6回いわき地区画像研究会開催される

平成21年2月24日(火)午後6時半よりいわき市立保健センター多目的ホールにおいて、第6回いわき地区画像研究会が開催された。今回はマンモグラフィにおける撮影技師認定や施設認定、モニタ診断がテーマである。

最初に福島労災病院 石井裕先生より「マンモグラフィ撮影認定技師試験を終えて」と題し講演が始まった。研修カリキュラム、読影実習や品質管理実習、臨床写真評価の説明を経て、読影試験のポイント、筆記試験のポイントの説明があった。読影試験では数多くの症例を見て慣れていることが重要であり、一方、筆記試験は一問の配点が高い（20問200点満点）ので問題の読み間違えなどないようにアドバイスがあった。

続いていわき市立常磐病院 村上光幸先生より「精中委へ提出する画像の撮り方と選び方 ～マンモ精中委は、あんな所までも、こんな所までも目を光らせている！らしい？～」というユニークなタイトルで講演があった。乳腺内コントラスト・乳腺外コントラストの解説から始まり、ポジショニングでの要点、圧迫時のコツ、撮影時のAEC位置設定、施設認定再評価で提出した写真の解説など乳房撮影を行っていない私でも理解できそうな詳しい説明があった。また、最近の精中委動向としてはポジショニングについての評価が以前とは違い厳しくなっていることや画像データへの撮影技師名表示の義務化、精検施設認定の開始など細かな部分での情報提供もあった。

次にコニカミノルタヘルスケア株式会社 東北支部 販売促進センター

長塩訓章先生より「マンモグラフィの現状と今後 ～ソフトコピー診断に向けて～」という演題で講演された。ことばの使い方として「ソフトコピー診断」とはフィルムレスでモニタ診断を行うことをいい、フィルムを用いて診断を行うことを「ハードコピー診断」と称しているようである。ソフトコピー診断では、読影の過程で画像を拡大し観察することは必須になり、最終的にはデータのサンプリングピッチが問題になるという話であった。また、実際に持ち込まれたPACSの画像とシャウカステンでのハードコピー写真を同一データで観察することができ貴重な体験であった。

最後になりましたが、今回の研究会にご協力頂いた、いわき地区乳房撮影精度管理放射線技師部会に感謝する。(鈴木)



県南支部

県南新年勉強会開催さる

去る1月31日PM2:30よりPM5:00まで郡山のビッグアイ7階にて、恒例の県南技師会新年勉強会が行われた。当日は勢力絶大な低気圧の通過に伴い、吹雪の悪天候にもかかわらず40名の参加を得て盛大に行われた。吉田会長の挨拶に始まり、会員から7演題の報告が行われた。その後学術奨励賞授与式が行われた。これは今年度の県学術大会に提出された演題のうち、県南技師会規定をクリアされた方が対象となる。今回は学術大会31演題のうち県南関係が18演題をしめ、規定をクリアした9名の方に授与された。今後もさらに励んでいただきたい。最後に教育講演として南東北



病院放射線科技師長鍵谷さんから「南東北がん陽子線治療センターの立ち上げと現状」の演題で、民間初の陽子線センターの構築・立ち上げ準備・現在の治療状況と今後についてお話して頂いた。普段あまり聞く事の出来ない部門の話で、装置の裏側の巨大な加速器の写真等大変興味を持って聞く事が出来、会場からも質問が出された。新年会も例年通り多数の出席を持って行われ、施設間の情報交換により有益な時間を過ごす事が出来た。(幕田)

- | | | |
|----------------------|---------|------|
| 1. 頸部MRAの撮像条件検討 | 白河厚生病院 | 吉田友彦 |
| 2. マンモコイルの再利用 | 太田西の内病院 | 新里昌一 |
| 3. SPACE法MRCP撮像の有用性 | 太田西の内病院 | 柳沼孝寿 |
| 4. レセプトオンライン請求の現状 | 根本クリニック | 菅野和之 |
| 5. 当院の冠動脈CTの成功率調査 | 星総合病院 | 阿部祐也 |
| 6. 脳動脈瘤測定時の個人差軽減への取組 | 塙厚生病院 | 須藤博之 |
| 7. 当院の3DDSA(DA)の使用経験 | 白河厚生病院 | 佐藤秀樹 |

会津支部

第70回会津画像研究の開催

平成21年1月30日(金)、山鹿クリニックにおきまして、第70回会津画像研究会が開催されました。当日は氷雨が時折降る中、多くの方に参加して頂きました。

最初の演題は、共催の第一三共株式会社の杉村道明氏から「最近の情報提供」と言うことで、ガドリニウム造影剤の使用によるNSF(またはNFD)発症とそのリスクファクターに関する情報提供をいただきました。これらの関係はこの数年で急速にわかってきたことですが、いまだ全部が解明されたわけではないので、今後も最新の情報に目を向けていく必要があるでしょう。次の演題は、

富士フィルムメディカル株式会社小川博之氏より「デジタルマンモグラフィ入門」と言う内容で講演をしていただきました。現在用いられている



CR・直接FPD・間接FPDなど、画像読み取りの違いがどのように行われているのか、デジタルならではの長所や短所、最新技術と今後の動向など、基礎部分の話から画像生成の仕方・最新情報まで、アニメーションを用いた非常にわかりやすい解説でした。

画像研究会終了後には、情報交換会を行い、多数の方に参加していただきました。今年度はこの画像研究会で最後となり、皆様のご協力の下、会津支部事業を無事に終えることが出来ました。(森谷)

県北支部

「県北支部新年交流会」開催される

平成21年1月23日、福島テルサにおいて毎年恒例の新年交流会が行われた。席上、斉藤重夫支部長より新年の挨拶があり「県北技師会として会員の皆様の力をおかりしながらより一層発展していきたい」とのお話があった。また本年の県総会が福島市飯坂で開催される事などが発表された。

片倉俊彦県技師会長からは「ますます医療や放射線技師の環境も厳しい状況になってきているが、今年の大きな仕事の一つに法人化があり、その為にしっかりと活動しなければならない」と述べられ、医療を提供する私たち放射線技師が日頃から研鑽を重ね患者様の信頼をつかんでいく事が大切になると本会の目的意義とともに語られた。その後、鈴木憲二副会長の乾杯の挨拶で開宴となった。施設間やメーカーの方々との情報交流も盛んに行われ、大変に盛り上がった新年会となった。今後も支部の活動を活発化するため、本年度も会員の皆様の積極的な参加を望みます。

編集後記

「政治とカネ」の問題がまたも世の中を騒がせている。自民、民主と別れてはいるが皆、同じに感じてしまう。何年たってもこの有り様では政治家など誰も信用してくれない。これが医療界の問題であったならと想像してしまう。医者は質が悪くてどうのと言った日本で一番偉い方がいたが、まずは自分自身の身を正すことが肝要と考える。次の総選挙はどうなることか。「新たなる風」が吹くことを期待する。(鈴木)